

製品名: ヒストン H3 (アセチル Lys9) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号:** APRab06211

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	アセチル化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ICC/IF 1:50-1:300
分子量	17kDa

抗原情報

遺伝子名	HIST1H3A
別名	HIST1H3A; H3FA; HIST1H3B; H3FL; HIST1H3C; H3FC; HIST1H3D; H3FB; HIST1H3E; H3FD; HIST1H3F; H3FI; HIST1H3G; H3FH; HIST1H3H; H3FK; HIST1H3I; H3FF; HIST1H3J; H3FJ; Histone H3.1; Histone H3/a; Histone H3/b; Histone H3/c; Histone H3/d; Histone H3;H3k9AC
遺伝子 ID	8350/8351/8352/8353/8354/8355/8356/8357/8358/8968/126961/333932/653604/3020/3021
SwissProt ID	P68431/Q71DI3/P84243
免疫原	抗血清は、ヒトヒストン H3 の Lys9 のアセチル化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。 アミノ酸範囲: 3-52

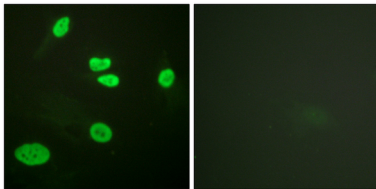
背景

H3ヌクレオソームの核となる構成要素。ヌクレオソームはDNAをクロマチンに包み込み、DNAを鋳型として利用する細胞機構へのDNAのアクセスを制限します。ヒストンは転写制御、DNA修復、DNA複製、そして染色体の安定性において中心的な役割を果たします。

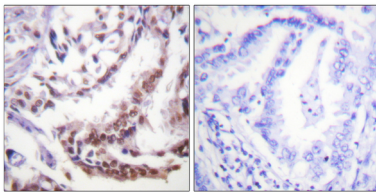
研究分野

タンパク質アセチル化

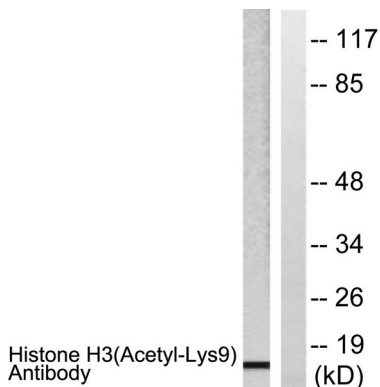
画像データ



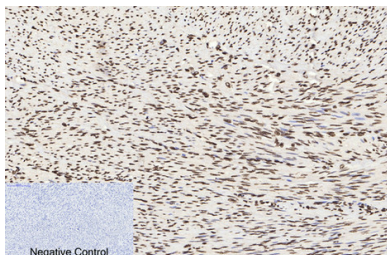
ヒストン H3 (アセチル-Lys9) 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



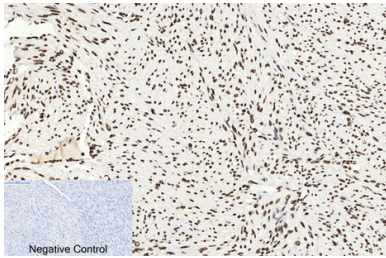
ヒストン H3 (アセチル-Lys9) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



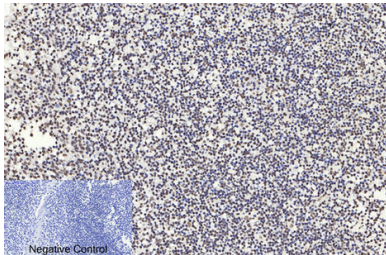
TSA 400nM で 24 時間処理した Raw264.7 細胞のライセートを、ヒストン H3 (アセチル-Lys9) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンは合成ペプチドでブロッキングした。



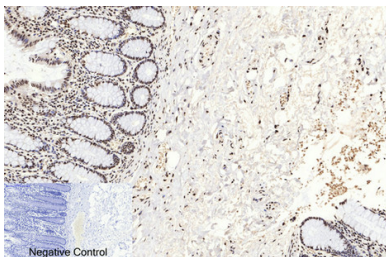
パラフィン包埋ヒト子宮組織の免疫組織化学染色。1. ヒストン H3 (アセチル Lys9) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



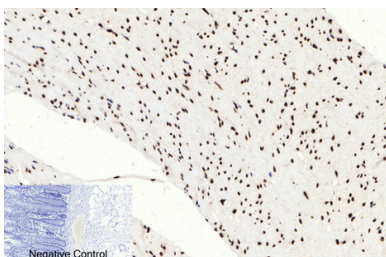
パラフィン包埋ヒト子宮癌組織の免疫組織化学染色。1. ヒストン H3 (アセチル Lys9) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



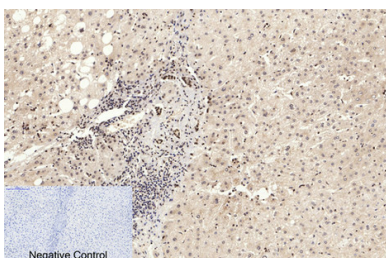
パラフィン包埋ヒト扁桃組織の免疫組織化学染色。1. ヒストン H3 (アセチル Lys9) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ヒト大腸組織の免疫組織化学染色。1. ヒストン H3 (アセチル Lys9) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ヒト大腸癌組織の免疫組織化学染色。1. ヒストン H3 (アセチル Lys9) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ヒト肝組織の免疫組織化学染色。1. ヒストン H3 (アセチル Lys9) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。